

Bulletin

全国ケーブルトラフ協会

会報

2005年第9号

Contents

P1	第3回定期総会のご報告
P2	商標登録について追加報告/ 賛助会員information
P3	会員Information
P4	詩

第3回定期総会のご報告

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。去る、平成17年4月15日（金）、パレスホテル大宮にて開催された定期総会についての決議事項をご報告申し上げます。



定期総会風景1



定期総会風景2

審議事項

第一号議案 平成16年度年の事業報告と収支決算承認に関する件

第二号議案 平成17年度の事業計画と収支予算承認に関する件

第三号議案 役員改選の件

第四号議案 定款第六条・第七条の変更に関する件

その他の報告

1. 商標登録

2. 岩隈ブロック

3. ロードセル試験機

上記についての経過・概要及び決議が行われ満場一致でご決裁頂きました。最後に新会員の正会員一株式会社トヨタ、賛助会員一脩巧商事株式会社、笹目油化株式会社の入会挨拶を行いました。

商標登録について追加報告

平成16年6月より調査・出願しておりました商標登録手続きが完了し、本部に「商標登録証」が届きましたので、証書の写真を掲載致します。

商標登録の「知的財産権と商標」については杉山・木村国際特許事務所より、別冊をご用意致しましたので、参照下さい。

なお登録商標の使用規程については、目下検討中です。



賛助会員 information

タナカ印刷株式会社 守谷 隆史

全国ケーブルトラフ協会の会員の皆様、初めまして。

今回よりこの「賛助会員information」が会報誌に加わり、初原稿依頼が私にきました。

ケーブルトラフ協議会の頃からの付き合いをさせて頂き、かれこれ3年程が経ちまして、今に至っております。

弊社は東京・銀座の隣にあります京橋の地で印刷機を廻しておりまして、近隣企業からの商業印刷（名刺、封筒、帳票からカラーパンフレット等）をメインにしております。

昨今は各企業もデジタル化が進み、デジタルデータを加工して印刷する時代において、弊社は一歩先行く企業を目指して日々努力をしております。

もし、皆様もお困りのようでしたら一声お掛け下さい。

弊社ホームページ <http://www.tanaka-p.co.jp/>

会員Information

株式会社 安達コンクリート工業 北原 茂

当社は新潟県のほぼ中央に位置し、北陸道、上信越道、上越新幹線の通る交通の要衝にあり、自然環境にも恵まれたところにあります。

創業は昭和8年。コンクリートで竈^{かまど}を作ったのが始まりです。

現在は、側溝や電線共同溝などの土木関係製品と、ビルの外壁・バルコニー・柱・梁などの建築関係製品を製造しています。

私が入社したのは昭和52年で、まだ上越新幹線の着工前でした。昭和55年から新幹線の線路に沿って通す電力や消雪用のダクト蓋の大量生産が始まりました。真夏に岩盤の大清水トンネルでダクト蓋の採寸のため、防寒着を着てバイクで線路の脇を走ったことが忘れられません。

私の仕事の内容が大きく変わったのは昭和63年に建築関係製品の製造を開始してからです。ビルの床、外壁（塗装仕上げ、タイル張り、石張り）、バルコニーなどを製造しました。コンクリートも、繊維補強コンクリート（鋼繊維、カーボン繊維、ビニロン繊維、ガラス繊維）、軽量コンクリート、高強度コンクリート等いろいろです。中でもコンクリートの靱性を高めた繊維補強コンクリートは大変魅力あるものでした。と同時に、いろいろな試験や実験の中で、改めて普通のコンクリートの特性の良さを知ることにもなりました。当初は失敗も多く、冬期に養生シートが風で捲れ、翌日に外壁に幅1～2mm程度の長いひびが無数に入ったことがあります。

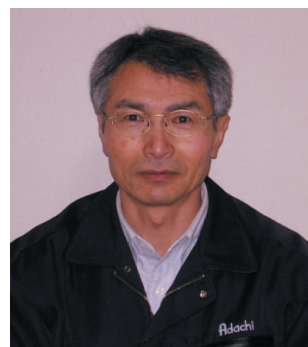
その後、高流動コンクリートが発表され、試験室でフライアッシュや各種石粉を使い、毎日楽しく実験しました。現在は混和剤の開発が進み、容易に出来ると思います。

最近特に思うことは、コンクリートの耐久性が短くなったことです。入社当時、コンクリートの耐久性は半永久的と教えられ、このような建物や土木構造物を造ることを誇らしく思いました。しかし現在では、アルカリ骨材反応や凍害、塩害、脆いなど、弱点が取り上げられることが多く、寿命が短いと思うようになりました（寿命を長くする方法があるのはもちろんのことです）。また、コンクリートは社会に必要不可欠な材料なのに、自然破壊の代名詞のように扱われるのは大変残念なことです。

コンクリートは砂利・砂・セメント・水と混和剤を混ぜるだけで、昔から殆ど変わらないのですが、実にいろいろなコンクリートができるし、強度や色も環境により様々に変化します。まさに生き物と言ってよいでしょう。毎日の変化が面白いところでもあります。

今後、問題点を克服した、新しいコンクリート製品の製造を楽しみにしています。

最後に、この度の中越地震に際して、皆様から心温まる義捐金を戴きました。紙面を借りて御礼申し上げます。





ダンチョネ節

沖の鷗に 深酒させてヨ いとしあの娘とヨ 朝寝する ダンチョネ
 (「船唄」阿久悠作詞：浜圭介作曲：八代亜紀歌：S54)

だいぶ年月は経ちましたが、八代亜紀の「舟歌」はヒット曲の一つです。
 その唄の挿入歌に上記のダンチョネ節があります。

昔の男の雰囲気を感じさせるこの唄に興味を湧き、元歌を捜していたら、
 たまたまラジオかなんかで下記の歌詞を知り、さらに興味をそそられてしま
 いました。

月々 沖の鷗と 飛行機乗りはヨ 何処の波間にヨ
 果てるやら ダンチョネ 月々

もしかしたら特攻隊の若者達が唄ったのではないだろうか？

あるとき風祭副理事長にこの話をしたら、インターネットで歌詞を調べて
 くれました。

しかし、その元歌はどうも気に入りません。「よしっ！自分で作っちゃおう！」
 と思ったのですが、どうして、簡単にはできません。4番の各前半までなんと
 か作ってお手上げになってしまいました。

頼まれれば否と云えないお人好しの風祭氏にオツツケてしまうことにしま
 した。

その作戦が大成功！下記のような戦果を挙げることができました。
 ここに謹んでご披露させていただく次第であります。

月々

明日は出撃 別れのときはヨ 一人翼のヨ 下で寝る ダンチョネ
 死んで行くのに 見送りゃいらんヨ 残る家族はヨ 目に涙 ダンチョネ
 故郷の母さん 泣かんでおくれヨ 俺の魂はヨ 親心ある ダンチョネ
 果ても知れない 青空翔けてヨ 明日の日本のヨ 幸福願う ダンチョネ

戦後60年、テレビでも当時の追憶番組をやっています。
 是非や批判はともかく、国を守ろうとして九州・知覧から飛び立った特攻隊
 の青年達の心情と行動を思うと、「生半可な人生は送れないぞ！」とツクヅク
 思います。